

## Ⅲ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の効果の検証

### 1 目的

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業は、児童生徒の「わかりやすさ」や「学習への興味や意欲の向上」に有効性について明らかにするとともに、ユニバーサルデザインの視点を効果的に授業に取り入れるための知見を得ることを目的とする。

### 2 方法

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた検証授業を実施し、授業を受けた児童生徒及び参観者を対象にそれぞれアンケート調査を実施した。また、検証授業後に研究協議を行った。

#### (1) 検証授業の実施

小学校3校、中学校1校、高等学校3校、特別支援学校3校の計10校で検証授業を行った(表3)。検証授業の実施にあたり、授業者に「授業づくりの12のポイント(表2)」の項目の中から具体的に何を取り入れたのか学習指導案に記すように求めた(詳細は【資料編】を参照のこと)。

#### (2) 児童生徒アンケート

授業を受けた児童生徒にアンケート調査を実施した。アンケートは、無記名自記式とし、授業実施後に回答を求めた。なお、特別支援学校は、児童生徒に回答は困難であると判断し、実施しなかった。

各授業とも5つの質問項目で構成した。そのうちの「興味」「話のわかりやすさ」「理解度」の3つは全ての授業に共通の項目とした。他の2項目は、それぞれの授業の中でユニバーサルデザインとして取り入れた「授業づくりの12のポイント」についての質問項目とした。なお、教科の特色によって共通項目であってもあえて、質問を変えた(例えば、F校の「体育」は、「理解度」に変えて「取組への意欲」とした)。

項目ごとに、4～1点の間で評定を付けさせ、併せて理由や根拠について自由記述を求めた。評定は、基本的に4件法としたが、数直線を設けて数値と数値の中間に○印を付けるなどの回答でもよいこととした(【資料編】参照)。その場合、付けた○印の距離を測定し、小数第1位で数値化した(例えば、4と3のちょうど中間に○印を付けた場合、3.5点とした)。

#### (3) 参観者アンケート

検証授業を参観した校内教員、校外教員、研究協力委員及び総合教育センター所員を対象にアンケート調査を実施した。

授業に取り入れた「授業づくりの12のポイント」の内容について、その効果について評定と自由記述を求めた。評定は、「とても効果がある」に5点、「少し効果がある」に4点、「どちらとも言えない」に3点、「あまり効果はない」に2点、「効果はない」に1点を与え、数値化した。

#### (4) 研究協議

可能な範囲で授業後に授業者と参観者とで研究協議を実施した。内容は、授業の振り返り、質疑応答及び協議を行った。

表3 検証授業一覧

	学校・学年・教科 教科・単元・題材等	授業の概要	実施した授業づくりのポイント	詳細の 掲載頁	回答数 上:児童生徒 下:参観者	研究 協議
A	小学校5年『道徳』 「夢をもち、未来を拓く」 資料「批木作りの里」	郷土の偉人「宮島勘左衛門」 の生き様から、人生を切り拓く ことの大切さを学ぶ。	⑤授業の見通し ⑦板書の工夫 ⑩「分かち合い」	資料1	31	○
					19	
B	小学校6年『外国語活動』 Hi friend Lesson 8 「夢宣言をしよう」	外国語サポーターとのTTによる 授業。外国語の表現に親しみ、 世界の様子を知る。	⑩話し合い活動 ⑩題材設定の工夫 ⑩視覚化等	事例1 p.73	34	○
					8	
C	小学校6年『算数』 「順序よく整理して 調べよう(場合の数)」	修学旅行を題材に、見学する 順序が全部で何通りあるか 整理して調べる。	⑥授業の組み立て ⑦板書の工夫 ⑩ヒントカード	事例2 p.77	27	○
					12	
D	中学校1年『技術・家庭』 「生活に役立つ小物をつ くろう」	木工作業。けがき線に沿っ て、まっすぐ直角にのこぎり で切断する。	①場の構造化 ⑦ICTの活用 ⑩ヒントカード	事例3 p.81	30	-
					7	
E	高校2年『古典(漢文)』 「史記『項羽と劉邦』 鴻門之会」	助動詞、句法等のルールを確 かめ、白文に訓点を付し、書 き下し文を読解する。	②刺激の排除 ⑦板書の工夫 ⑩プリント教材	事例4 p.85	19	○
					10	
F	高校2年『体育』 「長距離走」 (5km走)	能力別に4段階に分けて時 差スタート。能力・目標に適 ったグループを選べる。	⑦目標の明確化 ⑩時差スタート ⑫学習規律	事例5 p.89	31	○
					9	
G	高校2年『物理』 「静電気～静電誘導と 誘電分極」	授業を、「説明－問題演習(グ ループ活動)－確認テスト」 で構成。65分授業。	⑥授業の組み立て ⑦視覚的な説明 ⑩ファシリテーション	資料2	24	○
					4	
H	特別支援学校・小学部 『図画工作』「紙でいろ んなものを作ろう」	紙を丸めたりつなげたりし て「ぶどう」「恐竜」などの 作品を作る。個別化に工夫。	①パーティションの活用 ⑦ビデオ教材 ⑩教材の個別化	事例6 p.93	-	○
					8	
I	特別支援学校・中学部 『生活単元学習』「オレた ちの仕事をはじめよう」	アイロンビーズの袋詰め、楊枝 さしの袋折り・テープ止めな ど、個々の作業に取り組む。	⑤授業の見通し ⑦視覚的な説明 ⑩教材の個別化	資料3	-	-
					8	
J	特別支援学校・高等部 『作業学習』 「紙工芸」	牛乳パックを再利用し、班別 に一筆せん、ポチ袋、卓上カ レンダー等を作成する。	①場の構造化 ③手順書 ⑩教材の個別化	事例7 p.97	-	-
					19	

(注)丸数字は、「授業づくりの12のポイント(p.9～10)」の項目番号を表す。

## (5) 分析の視点

### ア 得点の高さの分析

各アンケートは、それぞれ項目ごとの得点を算出し、児童生徒の「理解度」、「興味・関心」及び「授業づくりのポイント」の得点の高さからその効果の測定を行う。

ただし、測定の対象となるそれぞれの授業の内容や学校種、データ数等が異なるため、得点を単純には比較できない。そこで、児童生徒の回答と参観者の回答を照らし合わせ、また自由記述も参考にし、総合的に分析を行う。

### イ 項目間の関係性の分析

実施した「授業づくりのポイント」が児童生徒の理解度や興味・関心を高めているのかどうか明らかにするため、児童生徒アンケート回答の5項目についてクラスター分析を行った。クラスター分析とは、類似性の高いグループ(クラスター)にまとめる分類のための技法であり、結果をデンドログラムによって表す。「理解度」「興味・関心」と「授業づくりの12のポイント」との間の関連の強さを分析することで、ユニバーサルデザインの効果を測定する。

### 3 結果と考察

各授業で得られた有効回答数を表3に示す。

児童生徒アンケートの結果をレーダーチャートに示した(図5)。最小値は2.92、最大値は3.98、中央値は3.58であった。参観者用アンケートのそれぞれの授業で設定した項目と平均点を図5に示した。最小値は3.2、最大値は5.0、中央値は4.3であった。

クラスター分析の結果を図6(p.17~18)に、結果の概要をp.18に示す。

#### (1) 「話のわかりやすさ」をユニバーサルデザイン化する効果

クラスター分析の結果、教師の「話のわかりやすさ」は、「理解度」と「興味・関心」の両方又はどちらか一方と高い類似性が認められた。

「話をわかりやすくする」とは、CAST「学びのユニバーサルデザイン・ガイドライン ver.2.0(p.5)」でいう「I. 提示に関する多様な方法の提示」に相当するものであり、情報の視覚化や視覚メディアの活用、パターンや重要事項、全体像、関係を目立たせるなどにあたる。本研究で作成した「授業づくりの12のポイント」のその多くが「提示」に関連した内容となっている。

例えば、C校は、児童生徒アンケートの「話のわかりやすさ」が3.91、理解度3.95といずれも高い得点を示している。この授業で取り入れた「授業づくりの12のポイント」のうち提示に関する内容は、「授業の組み立て(4.92)」や「板書の工夫(4.90)」であるが、いずれも参観者から高く評価されている。クラスター分析の結果からも「理解度」と「話のわかりやすさ」が極めて高い類似性が認められたことから、取り入れた「授業づくりの12のポイント」が有効に機能し、児童の「授業がわかった」という手ごたえとなったと考えられた。

したがって、児童生徒の理解や興味関心を高めるには、提示に関する内容をユニバーサルデザイン化することが重要であり、効果が認められると考えられた。

ただし、実技教科の場合、それが必ずしもあてはまるとは限らないことが示唆された。D校の技術・家庭の授業では、ユニバーサルの視点としてICTの活用を取り入れ、参観者からの評価も極めて高かった。しかし、「話のわかりやすさ」と「迷わずに作業できた」や「興味関心」との類似性は高くなかった。「わかる」ことと「できる」こととは、また別の次元であると考えられた。

#### (2) 小学校と高等学校では異なる学びの特徴

児童生徒アンケートの各項目を変数にクラスター分析によって項目間の類似性を分析したところ、小学校と高等学校とでそれぞれ特色があった。

小学校では3校とも「理解度」と「話のわかりやすさ」の密接度が高かった。「提示」に関する内容をユニバーサルデザイン化することで、児童の「わかった」に比較的直接的につながるものが推測された。

一方、高等学校では、「理解度」は「話のわかりやすさ」よりも「主体的な学び」に近い関係にあり、むしろ「話のわかりやすさ」は、「興味関心」と密接な関係にあった。このことは、高等学校では、生徒の授業内容の理解をより深める手立てとして、より主体的に学習に取り組む態度を促すことが重要であると考えられる。それは、CAST「学びのユニバーサルデザイン・ガイドライン ver.2.0」でいう「III. 取り組みに関する多様な方法の提供」に関する内容をユニバーサルデザイン化することではないだろうか。

したがって、発達段階に応じて取り入れるユニバーサルデザインの視点を焦点化したり、特化したりすることも必要になるのではないだろうか。

### **(3) ユニバーサルデザイン化された授業には多様な工夫や手立てがある**

「授業づくりの12のポイント」の項目を何か一つ取り入れればよいというわけではなく、複数の対策や仕掛けが相互に補完し合って児童生徒の学びを支えていると考えられた。

アンケートの自由記述や研究協議から、「授業づくりの12のポイント」の適切な実施にも関わらず、教師の指示を児童生徒が聞き逃す場面や説明を正しく理解しないまま演習に入る場面があった。しかし、そうした児童生徒も教師が用意した別の手立てによって、結果的に自分の聞き逃しや間違いに気づくことができていることが多々あった。

例えば、一斉指導の場面に聞き逃しがあっても生徒同士がペアになって確認し教え合う場面で自分の間違いに気づいたり、教師の説明では内容を正しく理解できなかった生徒が配布された図解の豊富なプリント資料によって理解できたりしていた。

### **(4) 授業者の設定した以外にもユニバーサルデザインと呼ぶにふさわしい支援も**

参観者アンケートから授業者が設定した「授業づくりのポイント」ではないものが、児童生徒の取組を促進していることがあった。

例えば、前の項目で示した「生徒同士によるペア学習」は、授業者の授業設計ではユニバーサルデザインの視点として取り入れたものではなく、教科の特性から「効果的な指導方法」という観点から普通の授業で取り入れていた。しかし、結果的に聞き逃しのあった生徒の気づきを促すという効果があった。

本研究の「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」の定義の中に「通常の学級で培った『どの子にもわかる授業』とされてきた要素」とあるが、まさにこの事例がそれにあたるのであろう。

### **(5) 特別支援学校におけるユニバーサルデザイン**

検証授業として実施した特別支援学校の授業の中には、いずれも「個人差への配慮」が取り入れられており、教材や教具の個別化が実施されていた。

参観者アンケートからは、いずれも概ね高い評価が多かったが、少数ではあるが参観者から「より個々の実態に応じた工夫が必要」という意見もあった。

授業を評価するには、たとえ、それが一般に有効性が高いといわれる支援策であっても、実際に個々の児童生徒に適した支援となっていなければ、効果があるとは言えない。

一斉指導、集団での指導の中でも個別の指導計画を活用し、内容や教材の個別化を一層進める必要がある。

図5 アンケート結果の概要

授業	児童生徒アンケート	参観者アンケート										
A校 小5年 「道徳」	<p>興味関心 3.48 授業の見通し 2.92 話し合い 3.28 理解度 3.45 話のわかりやすさ 3.47</p>	<table border="1"> <tr> <td>ルールの確立：「分かち合い」の形式を取り入れたことで、話し合いが円滑になる</td> <td>3.74</td> </tr> <tr> <td>授業の見通し：授業の流れを図式化し、掲示したことで、活動の見通しが持てる。</td> <td>3.34</td> </tr> <tr> <td>板書の工夫：話し合いの見通しが持ちやすい。発表や発言が把握しやすい。</td> <td>4.21</td> </tr> </table>	ルールの確立：「分かち合い」の形式を取り入れたことで、話し合いが円滑になる	3.74	授業の見通し：授業の流れを図式化し、掲示したことで、活動の見通しが持てる。	3.34	板書の工夫：話し合いの見通しが持ちやすい。発表や発言が把握しやすい。	4.21				
		ルールの確立：「分かち合い」の形式を取り入れたことで、話し合いが円滑になる	3.74									
授業の見通し：授業の流れを図式化し、掲示したことで、活動の見通しが持てる。	3.34											
板書の工夫：話し合いの見通しが持ちやすい。発表や発言が把握しやすい。	4.21											
<p>児童の「授業の見通し」が低さが目立った。図式化して掲示するなどUDの視点として取り入れた事項ではあるが、掲示のみで授業前や途中に確認の機会がなかったからかもしれない。</p>												
B校 小6年 外国語 活動	<p>心に残った 3.71 イメージの残らみ 3.61 話し合い 3.14 理解度 3.77 話のわかりやすさ 3.83</p>	<table border="1"> <tr> <td>参加の促進：これまでの学習を相互に関連付けた題材設定により、関心・意欲が高まる。</td> <td>4.89</td> </tr> <tr> <td>授業の組み立て：授業に基本のパターンがあり、見通しが持て主体的に活動できる。</td> <td>3.89</td> </tr> <tr> <td>参加の促進：ペアやグループでの話し合い活動を設定することで、自分の夢や考えを発表しやすくなる。</td> <td>4.56</td> </tr> <tr> <td>参加の促進：児童の想像を広げやすくするために写真や挿絵を活用したり、役割演技などを取り入れたりする。</td> <td>4.67</td> </tr> </table>	参加の促進：これまでの学習を相互に関連付けた題材設定により、関心・意欲が高まる。	4.89	授業の組み立て：授業に基本のパターンがあり、見通しが持て主体的に活動できる。	3.89	参加の促進：ペアやグループでの話し合い活動を設定することで、自分の夢や考えを発表しやすくなる。	4.56	参加の促進：児童の想像を広げやすくするために写真や挿絵を活用したり、役割演技などを取り入れたりする。	4.67		
		参加の促進：これまでの学習を相互に関連付けた題材設定により、関心・意欲が高まる。	4.89									
		授業の組み立て：授業に基本のパターンがあり、見通しが持て主体的に活動できる。	3.89									
		参加の促進：ペアやグループでの話し合い活動を設定することで、自分の夢や考えを発表しやすくなる。	4.56									
参加の促進：児童の想像を広げやすくするために写真や挿絵を活用したり、役割演技などを取り入れたりする。	4.67											
<p>全体的に高い評価であった。児童の「話し合い」が3.14点なのは、設問が「話し合い」と「発表」ができたかについて訪ねるWクエスチョンであったため、発表していない児童が低い点をつけたことによる。児童の実体験を題材にした点が参観者から「興味を持って参加した」と評価されていた。</p>												
C校 小6年 算数	<p>興味関心 3.89 ヒントカード 3.98 話し合い 3.61 理解度 3.95 話のわかりやすさ 3.91</p>	<table border="1"> <tr> <td>教室環境「刺激への配慮」：前方の掲示板に目隠しカーテンを使用し黒板周りがすっきり。</td> <td>4.54</td> </tr> <tr> <td>授業の組み立て：基本パターンがあり、見通しが持て主体的に活動できる。</td> <td>4.92</td> </tr> <tr> <td>板書の工夫：学習カードの活用、チョークの色分け、授業の展開が分かる工夫。</td> <td>4.90</td> </tr> <tr> <td>参加の促進：発表ボードやワークシート・ヒントカードの活用。活躍できる場や活動の設定。</td> <td>4.92</td> </tr> <tr> <td>個人差への配慮：個別の補助具（便利カード）の活用。</td> <td>5.00</td> </tr> </table>	教室環境「刺激への配慮」：前方の掲示板に目隠しカーテンを使用し黒板周りがすっきり。	4.54	授業の組み立て：基本パターンがあり、見通しが持て主体的に活動できる。	4.92	板書の工夫：学習カードの活用、チョークの色分け、授業の展開が分かる工夫。	4.90	参加の促進：発表ボードやワークシート・ヒントカードの活用。活躍できる場や活動の設定。	4.92	個人差への配慮：個別の補助具（便利カード）の活用。	5.00
		教室環境「刺激への配慮」：前方の掲示板に目隠しカーテンを使用し黒板周りがすっきり。	4.54									
		授業の組み立て：基本パターンがあり、見通しが持て主体的に活動できる。	4.92									
		板書の工夫：学習カードの活用、チョークの色分け、授業の展開が分かる工夫。	4.90									
		参加の促進：発表ボードやワークシート・ヒントカードの活用。活躍できる場や活動の設定。	4.92									
個人差への配慮：個別の補助具（便利カード）の活用。	5.00											
<p>児童及び参観者ともに極めて高い評価。その中であって、児童の「話し合い」3.61点は、設問が「話し合い」と「発表」ができたかについて訪ねるWクエスチョンであったため、発表していない児童が低い点をつけたことによる。修学旅行から題材を選んだことも「参加を促進」していたという意見があった。</p>												
D校 中1年 技術	<p>興味関心 3.36 迷わずにできた 3.43 話し合い 3.03 理解度 3.72 話のわかりやすさ 3.72</p>	<table border="1"> <tr> <td>作業時間の確保（効率よい作業）：安全で作業しやすい木工室のレイアウト、工具の整理・整頓、アラームによる時間報告</td> <td>5.00</td> </tr> <tr> <td>導入の工夫：ICTを活用することで作業内容やポイントを視覚的に分かりやすくする。</td> <td>5.00</td> </tr> <tr> <td>ヒントカードの活用：個人差を配慮し、必要な生徒はヒントカードを掲示し、活用できるようにした。</td> <td>4.33</td> </tr> <tr> <td>補助具・工具の工夫：向きや材料の固定の仕方を示した椅子、のこぎりの切り込み角度を示す補助線</td> <td>4.60</td> </tr> </table>	作業時間の確保（効率よい作業）：安全で作業しやすい木工室のレイアウト、工具の整理・整頓、アラームによる時間報告	5.00	導入の工夫：ICTを活用することで作業内容やポイントを視覚的に分かりやすくする。	5.00	ヒントカードの活用：個人差を配慮し、必要な生徒はヒントカードを掲示し、活用できるようにした。	4.33	補助具・工具の工夫：向きや材料の固定の仕方を示した椅子、のこぎりの切り込み角度を示す補助線	4.60		
		作業時間の確保（効率よい作業）：安全で作業しやすい木工室のレイアウト、工具の整理・整頓、アラームによる時間報告	5.00									
		導入の工夫：ICTを活用することで作業内容やポイントを視覚的に分かりやすくする。	5.00									
		ヒントカードの活用：個人差を配慮し、必要な生徒はヒントカードを掲示し、活用できるようにした。	4.33									
補助具・工具の工夫：向きや材料の固定の仕方を示した椅子、のこぎりの切り込み角度を示す補助線	4.60											
<p>児童の「わかりやすさ」が高く、裏付けるように参観者からの評価も極めて高い。ただし、実技教科のためか、「わかる」に比べて、「できた」はやや低い。作業時間は「もっとやりたい」という前向きな意見だった。</p>												
E校 高2年 古典 (漢文)	<p>興味関心 3.42 主体的に学習 3.54 話し合い 3.73 理解度 3.58 話のわかりやすさ 3.83</p>	<table border="1"> <tr> <td>穏やかな声で授業を行う：不要な刺激の排除、注目を促し、指示が伝わりやすくする。</td> <td>4.36</td> </tr> <tr> <td>分かりやすさの工夫：授業の見通しを持たせる導入、「書き下しのルール」の活用、マインドマップの活用</td> <td>4.50</td> </tr> <tr> <td>板書の工夫：チョークの色の使い分け、記号の活用</td> <td>3.20</td> </tr> </table>	穏やかな声で授業を行う：不要な刺激の排除、注目を促し、指示が伝わりやすくする。	4.36	分かりやすさの工夫：授業の見通しを持たせる導入、「書き下しのルール」の活用、マインドマップの活用	4.50	板書の工夫：チョークの色の使い分け、記号の活用	3.20				
		穏やかな声で授業を行う：不要な刺激の排除、注目を促し、指示が伝わりやすくする。	4.36									
		分かりやすさの工夫：授業の見通しを持たせる導入、「書き下しのルール」の活用、マインドマップの活用	4.50									
板書の工夫：チョークの色の使い分け、記号の活用	3.20											
<p>生徒及び参観者からの評価は総じて高い。参観者の「板書の工夫」3.2点は、板書そのものの機会が少なかったためと思われる。むしろ評価項目にはないが「プリント教材」が工夫されていたという意見があった。また、指示を聞き逃す生徒がいても、生徒同士がペアで学ぶ場面で気づいたり教え合ったりしている。</p>												

授業	児童生徒アンケート	参観者アンケート								
F校 高2年 体育		<table border="1"> <tr> <td>個人差への配慮及び参加の促進：時差スタートを活用することで、能力差がある中で生徒一人一人が全力を出し切れる。</td> <td>4.90</td> </tr> <tr> <td>大きめのタイマーと評価規準の掲示：目標を意識し、意欲を持って取り組める。</td> <td>4.30</td> </tr> <tr> <td>授業規律と話を聞く態度の形成：習慣化することで、落ち着いて、楽しく安全に授業に参加することができる。</td> <td>4.60</td> </tr> </table> <p>生徒及び参観者からの評価は総じて高い。参観者から「時差スタート」の効果を高く評価されているが、生徒評価が3.48点であるのは、「なくても実力を発揮できる」という意見の生徒があったため。</p>	個人差への配慮及び参加の促進：時差スタートを活用することで、能力差がある中で生徒一人一人が全力を出し切れる。	4.90	大きめのタイマーと評価規準の掲示：目標を意識し、意欲を持って取り組める。	4.30	授業規律と話を聞く態度の形成：習慣化することで、落ち着いて、楽しく安全に授業に参加することができる。	4.60		
個人差への配慮及び参加の促進：時差スタートを活用することで、能力差がある中で生徒一人一人が全力を出し切れる。	4.90									
大きめのタイマーと評価規準の掲示：目標を意識し、意欲を持って取り組める。	4.30									
授業規律と話を聞く態度の形成：習慣化することで、落ち着いて、楽しく安全に授業に参加することができる。	4.60									
G校 高2年 物理		<table border="1"> <tr> <td>構造化された授業プロセス：進め方に一定の型があることで生徒は見通しを持ち、能動的な学習が促される。</td> <td>4.80</td> </tr> <tr> <td>視覚化された分かりやすい説明：パワーポイントやプリントの配付による視覚的で分かりやすい説明。</td> <td>5.00</td> </tr> <tr> <td>参加の促進と個人差への配慮：生徒個々の多様な学びを認めて促すファシリテーションや介入。</td> <td>4.80</td> </tr> </table> <p>生徒の「話のわかりやすさ」「興味関心」の評価が高い。それを裏付けるように参観者からの評価が各項目とも極めて高い。「理解度」が他と比較して低いが、評定を3以下につける生徒でも自由記述には「自分で復習しないといけない」など、必ずしも否定的な意見ではなかった。</p>	構造化された授業プロセス：進め方に一定の型があることで生徒は見通しを持ち、能動的な学習が促される。	4.80	視覚化された分かりやすい説明：パワーポイントやプリントの配付による視覚的で分かりやすい説明。	5.00	参加の促進と個人差への配慮：生徒個々の多様な学びを認めて促すファシリテーションや介入。	4.80		
構造化された授業プロセス：進め方に一定の型があることで生徒は見通しを持ち、能動的な学習が促される。	4.80									
視覚化された分かりやすい説明：パワーポイントやプリントの配付による視覚的で分かりやすい説明。	5.00									
参加の促進と個人差への配慮：生徒個々の多様な学びを認めて促すファシリテーションや介入。	4.80									
H校 特・小 図画工作	なし	<table border="1"> <tr> <td>授業の見通し：「見本ビデオ」を用いた、視覚的に分かりやすい導入と手順表</td> <td>4.60</td> </tr> <tr> <td>参加の促進・個人差への配慮：作り方、作る量が分かりやすい教具（紙を筒状に丸める道具）</td> <td>4.35</td> </tr> <tr> <td>個人差への配慮：同じ題材、素材を扱いつつ、活動量や内容、支援具を個々に配慮した授業内容。</td> <td>4.30</td> </tr> <tr> <td>場の構造化：ついたてや机を用いた場の構造化（意識しやすさ、不要な刺激のシャットダウン）。</td> <td>4.40</td> </tr> </table> <p>参観者からは、「児童は落ち着いて参加していた」「個別の配慮が行き届いていた」と評価が高かった。研究協議の中で、「見本ビデオ」は流すだけではなく、静止画を取り入れるとより効果的という意見があった。</p>	授業の見通し：「見本ビデオ」を用いた、視覚的に分かりやすい導入と手順表	4.60	参加の促進・個人差への配慮：作り方、作る量が分かりやすい教具（紙を筒状に丸める道具）	4.35	個人差への配慮：同じ題材、素材を扱いつつ、活動量や内容、支援具を個々に配慮した授業内容。	4.30	場の構造化：ついたてや机を用いた場の構造化（意識しやすさ、不要な刺激のシャットダウン）。	4.40
授業の見通し：「見本ビデオ」を用いた、視覚的に分かりやすい導入と手順表	4.60									
参加の促進・個人差への配慮：作り方、作る量が分かりやすい教具（紙を筒状に丸める道具）	4.35									
個人差への配慮：同じ題材、素材を扱いつつ、活動量や内容、支援具を個々に配慮した授業内容。	4.30									
場の構造化：ついたてや机を用いた場の構造化（意識しやすさ、不要な刺激のシャットダウン）。	4.40									
I校 特・中 生活単 元学習	なし	<table border="1"> <tr> <td>授業の見通し：工程表や授業の流れを示す掲示物の活用、一定の流れを繰り返す授業スタイル。</td> <td>3.67</td> </tr> <tr> <td>視覚的に分かりやすくする：イラストや写真を活用し、視覚的に分かりやすい提示。</td> <td>3.67</td> </tr> <tr> <td>個人差への配慮：作業内容や工程の個別化。</td> <td>3.22</td> </tr> </table> <p>それぞれのUDの視点が授業に取り入れられているものの、一層綿密な「個々の生徒の実態に合った工夫や配慮が必要」という記述が見られ。また、活動のねらいを明確にすること、提示する写真は「何を伝えたいのか」情報量を限定すること、などが指摘された。</p>	授業の見通し：工程表や授業の流れを示す掲示物の活用、一定の流れを繰り返す授業スタイル。	3.67	視覚的に分かりやすくする：イラストや写真を活用し、視覚的に分かりやすい提示。	3.67	個人差への配慮：作業内容や工程の個別化。	3.22		
授業の見通し：工程表や授業の流れを示す掲示物の活用、一定の流れを繰り返す授業スタイル。	3.67									
視覚的に分かりやすくする：イラストや写真を活用し、視覚的に分かりやすい提示。	3.67									
個人差への配慮：作業内容や工程の個別化。	3.22									
J校 特・高 作業学習	なし	<table border="1"> <tr> <td>場の構造化：整理整頓（清掃用具、文具、材料）により見通しを持ち、取り組める。</td> <td>4.00</td> </tr> <tr> <td>ルールの確立：手順書を活用することで見通しがもて、積極的に参加できる。</td> <td>3.78</td> </tr> <tr> <td>板書の工夫：作業目標、作業結果、製作目標を記し、目標意識と意欲を高める。</td> <td>4.00</td> </tr> <tr> <td>個人差への配慮：補助具の活用、すき具、計量道具の改良等により参加意欲を高める。</td> <td>4.00</td> </tr> </table> <p>参観者の評定は、大きく分かれた。例えば、「個々の配慮が十分になされていた」という意見もあれば、「理解の低い生徒への工夫が見られない」「用具や安全への配慮が感じられない」などであった。授業のUDを単に「授業のコツ」という水準ではなく、授業の質そのものとして考える必要があるという指摘もあった。</p>	場の構造化：整理整頓（清掃用具、文具、材料）により見通しを持ち、取り組める。	4.00	ルールの確立：手順書を活用することで見通しがもて、積極的に参加できる。	3.78	板書の工夫：作業目標、作業結果、製作目標を記し、目標意識と意欲を高める。	4.00	個人差への配慮：補助具の活用、すき具、計量道具の改良等により参加意欲を高める。	4.00
場の構造化：整理整頓（清掃用具、文具、材料）により見通しを持ち、取り組める。	4.00									
ルールの確立：手順書を活用することで見通しがもて、積極的に参加できる。	3.78									
板書の工夫：作業目標、作業結果、製作目標を記し、目標意識と意欲を高める。	4.00									
個人差への配慮：補助具の活用、すき具、計量道具の改良等により参加意欲を高める。	4.00									

児童生徒アンケートは、4～1点で、参観者アンケートは、5～1点でそれぞれ評定を求めた。

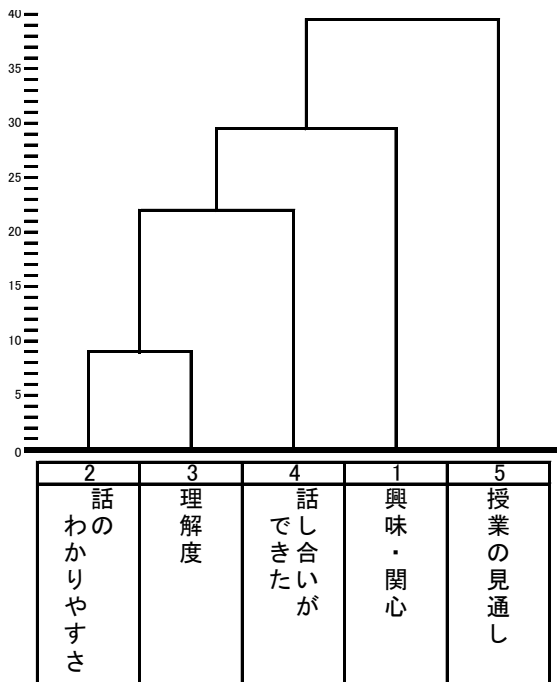


図6-1 A校(小5年「道徳」)

「話のわかりやすさ」と「理解度」の類似性が高いが、他の項目と連結するまでの枝が長く、項目間の関連は強いと考えられた。

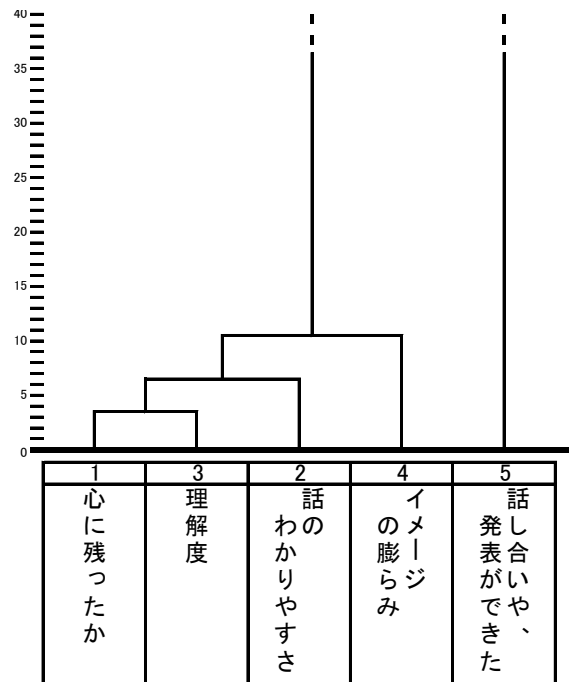


図6-2 B校(小6年「外国語活動」)

5項目のうち「5 話し合いや、発表ができた」以外の4項目は類似性が高く、相互の関連は強いと考えられた。

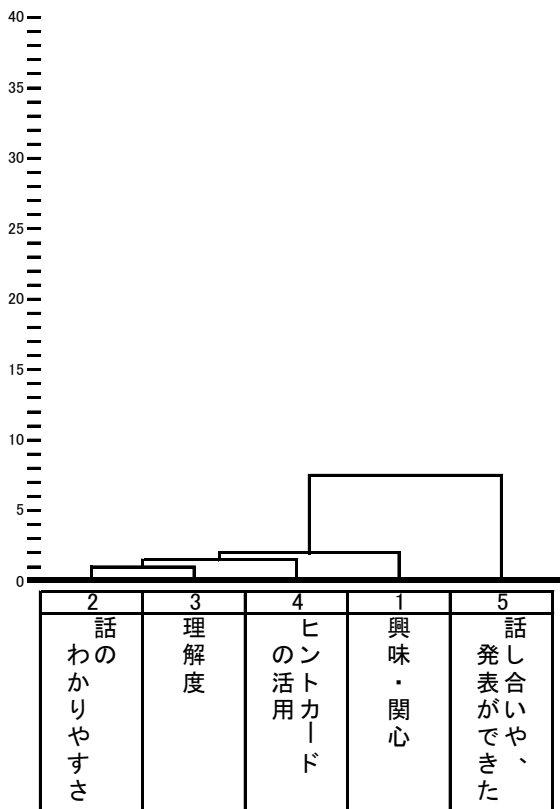


図6-3 C校(小6年「算数」)

全ての項目において類似性が高く、特に「話し合いや、発表ができた」以外の4項目の関連は極めて強い。

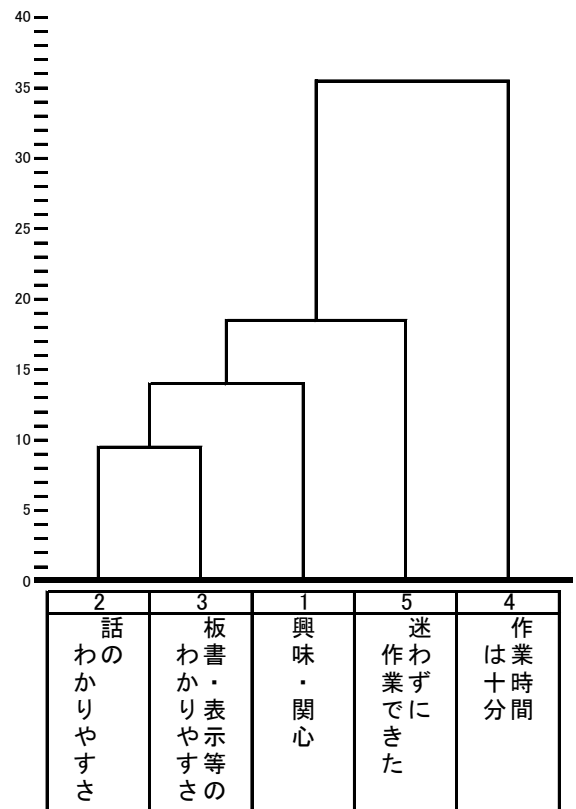


図6-4 D校(中1年「技術」)

「話のわかりやすさ」と「板書・表示等さわりのわかりやすさ」の類似性が高いが、それらと他の項目との関連は弱い。

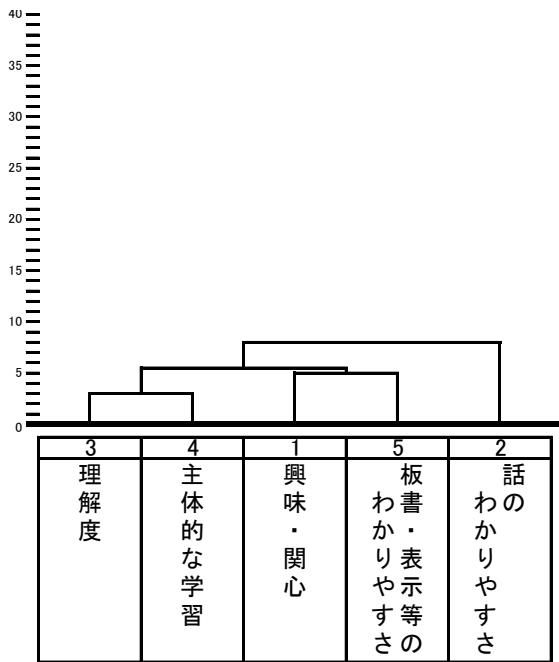


図6-5 E校(高2年「古典」)

全体としての類似性は高い。その中で「理解度」と「主体的な学習」が、「興味関心」と「板書・表示等のわかりやすさ」に関連は強いと考えられた。

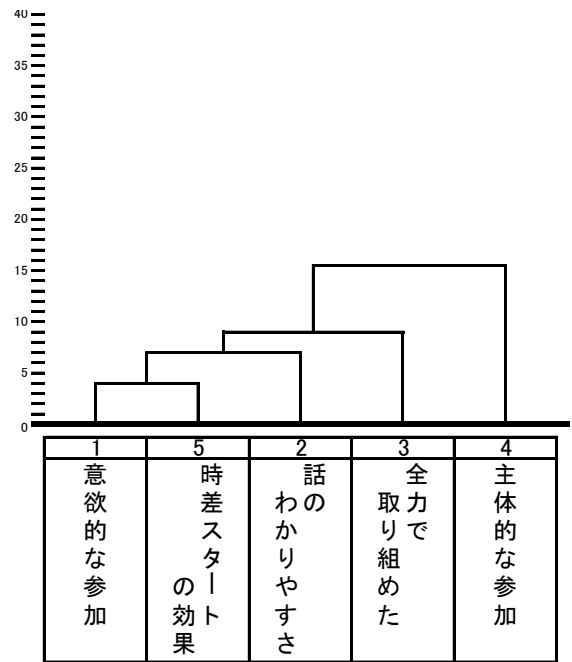


図6-6 F校(高2年「体育」)

「主体的な参加」以外の4項目は、高い類似性を示した。その中で「意欲的な参加」と「時差スタート」との間の関連が強いと考えられた。

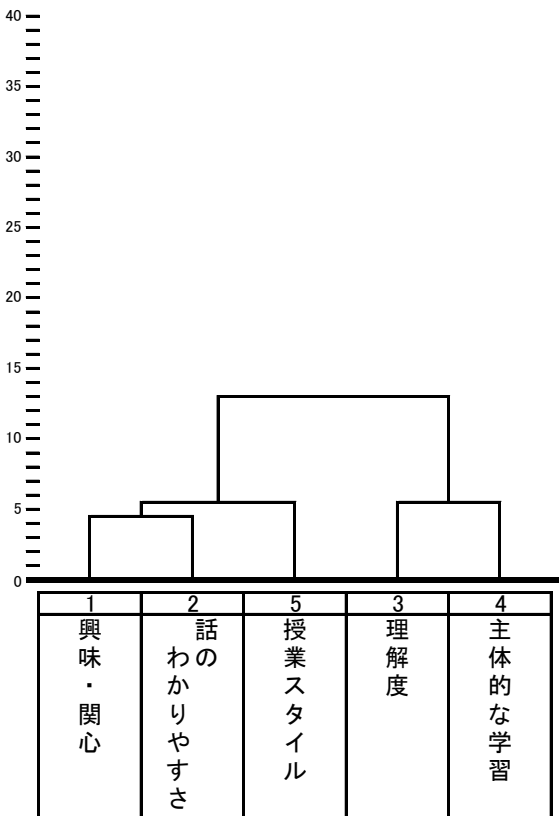


図6-7 G校(高2年「物理」)

全体としての類似度は高い。その中で「興味関心」と「話のわかりやすさ」「授業スタイル」のまとまり、「理解度」と「主体的な学習」のまとまりが示された。

＜クラスター分析の結果概要＞

①児童生徒アンケートの結果 (p.15～16) と照らし合わせると、評定の低かった項目は他の項目との関連性も弱かった (例えばA校の「授業の見通し」、B校の「話合いや発表ができた」、D校の「作業時間は十分」)。  
 ②児童生徒アンケート及び参観者アンケートの結果と照らし合わせると、いずれも評定の高かった授業は、取り入れた「授業づくりのポイント」の項目が「興味・関心」「学習意欲」「理解度」と密接に関連していた (例えば、C校の「ヒントカードの活用」、F校の「時差スタートの効果」、G学校の「授業スタイル」等)。  
 ③学校種で連結 (まとめ) に特色が見られた。小学校では「理解度」と「話のわかりやすさ」に類似性が高かった。一方で高等学校は「理解度」と「主体的な参加」に、「興味・関心」と「話のわかりやすさ」「板書・表示等のわかりやすさ」との間で関連が強かった。

(注) デンドログラム

・縦の枝が短く、数値の小さい段階で項目同士が連結しているものは、相互に類似性が高いことを示している。